

タケシール AE 2 1 1 プライマー

業務用

水系低臭で、作業性に優れながら、従来の溶剤型 2 液エポキシ系を凌ぐ下地接着性と耐水性を実現したウレタン防水・床材用下塗り材です。

施工直後も極めて低臭で、硬化後は早期に臭いが消滅しますので、外部のみならず施工時と養生期間の通気に気を配れば、内部での使用も可能になりました。外部やピット内部の作業においても、溶剤臭や引火性がなくなったので、環境・作業者ならびに、周囲への配慮に適った下塗り材です。

用途 ○屋上・ベランダ・廊下・階段等外部の防水工事・塗り床工事の下塗りで、下地がモルタル面・鉄部の場合に適します。

※ウレタン防水・ウレタン系床材の塗り重ねには、ウレタン系 No.4 0 0 プライマーをご使用ください。

○厨房床や、食品工場・学校等の床・防水工事に適します。

○水槽・地下構内の防水工事に適します。

特徴 ○モルタル・コンクリート・スレートなど、無機質の素材への浸透力に優れ、内部深く浸透することで、表面部分の強度を内部から改善し、密着力の強化と共に、外気や水分の浸入を防ぎます。

○劣化の進行した古い下地の表面強度の改善と、中性化など劣化の進行抑制に、顕著な効果を示します。

○耐水性、耐薬品性、特に耐アルカリ性に優れ、タケシールエポ床用など耐薬品性塗装材の下塗りに適します。

○A 液 B 液の混合液の可使時間は 2 時間ありますので、余裕を持って作業することが可能です。ただし、**2 時間を経過した混合液は反応を終了していますので、ご使用にならないで下さい。また、小分けは、A 液 B 液ともほぼ同比重ですから、計量カップにて同じ容量を計ってください。**

荷姿 8kg セット、2kg セット（配合重量比 A 液 : B 液 = 1 : 1 ポリ容器）

塗布量

下地の種類	塗布回数	標準塗布量
コンクリート・モルタル面	2	0.3 kg 以上 / m ²
スレート板	1	0.1 kg / m ²
鋼板（脱脂・目荒し後）	1	0.1 kg / m ²

【注意】コンクリート・モルタル面に塗布する場合は、1 回当たり（0.15 kg / m²）の塗布量で、十分に浸透するよう、溜りが発生しないよう注意しながら、2 時間以内に塗布できる量の混合液を作成し、たつぷりと希釈せずそのまま、塗布します。

乾燥後、再度塗布し、表面がぬれ色に仕上がれば上塗りを塗布します。

塗装間隔：1 回目塗布後約 2 時間 2 回目以降 3 時間以上（気温 25℃湿度 50%屋外）

下地によっては、強く吸い込まれてしまう場合があります。その場合は、再度同様の塗装を繰り返します。

または、あらかじめ、当社下地調整材“タケモルカチオン EV+タケモルフィラー-A-1”で下地処理した後に、当商品をご使用ください。

乾燥時間 晴天時気温 25℃の場合で 3～4 時間

硬化を確認後 上塗りの塗布作業が可能です。

ただし、下地温度が 10℃以下になることが予想される場合は、作業をしないで下さい。

性状

項目	A 液	B 液
外観	淡黄色透明液体	乳白色
比重 (20℃)	1.1	1.0
不揮発分 (%)	28	35
配合比 (重量比)	100	100
混合物の可使時間 (25℃)	混合後 2 時間	
指触乾燥 (25℃)	3～4 時間	
上塗り可能時間	4 日以内 (万一 4 日以上放置の場合は、サンドペーパー等で面を荒らしてから再塗装してください。)	

接着強度 試料作成条件=基材に試験体を塗布、24時間養生後、タケシールハヤテを塗布7日間養生

引張り試験 (下地モルタル)	2.4 kg f 以上/cm ²	基材破壊
引張り試験 (下地鋼板)	1.8 kg f 以上/cm ²	界面破壊

使用上の注意事項

1. A 液と B 液の攪拌混合を始めた時刻から、2 時間以上経過した混合液は使用しないでください。
下地との接着強度不足を生じる原因となります。
2. 手間のかかる作業では、必ず 2 時間以内で使い切れる量を適切な重量計で、小分けして少量ずつ混合してご使用下さい。
3. 下地温度が、10℃に満たない場合はご使用にならないで下さい。
4. 降雨が予想される場合は施工をしないで下さい。
5. 河川への流出を避けて下さい。
6. 取扱い中は、保護メガネ、保護手袋を着用して下さい。
7. 容器からこぼさないよう取り扱ってください。こぼれた場合には、布で拭き取り、汚染した布は産業廃棄物として処分して下さい。
8. 貯蔵は、必ずフタをし、直射日光を避け 40℃以下 5℃以上の一定の場所を定めてください。
9. 子供の手の届かない場所に保管してください。
10. 内容物は、使い切ってから廃棄してください。
11. 他の用途には、使用しないでください。
12. 指定された材料以外とは、混合しないでください。
13. 呼吸器やヒフが敏感なアレルギー体質の方の近くでは、使用しないでください。